

下の急務だと信じます。特に歯科等も専任のいる所は大変少い様です。それ故保健所辺りの保健婦が口腔診査をやられて居る所もありますが、こうした事ではむしろ行わない方がましだと存じます。

最近我が国でも婦人のオーラルハイジエント（口腔衛生士）と云う新職業が出来、すでに卒業生もでて居りますが、将来はこうした人々を是非保育園あたりで充分活用される事がよいと存じます。口腔診査はけつして義務的診査に終らず、それらの結果を必ず家庭へ連絡し、完全な処置をとる様努力して戴きたく思ひます。これには

乳 歯 む し 歯 の 意 義

保育医学研究会委員
立教学院歯科校医

高 橋 勝 哉

保育園・幼稚園あたりで、保育健康手帳の如きものを製作され、たえず児童の健康状態を観察記入されるべきだと存じます。

又少くとも月一度ぐらいは、専門医達による総合的ヘルス コンサルテーション・ガイダンス等を行う事もぞまじいと思ひます。

以上くどくどしく申しのべましたが、乳歯期に於ける歯牙の養護がいかに大切か又そのあり方を少しでも理解していただければ、私は幸です。

乳歯が乳幼児期に於いて、如何に重要な働きをもっているか、今迄一般に軽視されていたことは真に残念なことであります。

斯様な誤解を多くの人々に与える原因は

① 乳歯は永久歯が生え変わる迄の、間に合せの歯に過ぎないから、乳歯はどうあろうとも永久歯になつてから、氣をつければ大丈夫と云う考えからだと思ひます。

② この誤つた考え方の責任は、一般の人々のみでなく歯科医自身が一般の人々に対する乳歯の重要性の啓蒙運動の不足も、その一因と思ひます。

乳歯は改めて言う迄もなく、永久歯が生え変わるまでの、間に合せの

ものではありません。乳歯には乳歯独自の働きをもっております。一口に言へば永久歯の完成を助けると同時に、乳幼児の発育に深い關係をもっております。

乳歯むし歯のもつ意義を述べる前に、乳歯は如何なる働きをもっているか簡単に述べることに致します。

① 顔・顎・身体の発育に深い關係をもっております。

適正なスポーツによつて、均整のとれた筋肉美が形成されると同様に、顔の動的美しさも顔を形成する種々の筋肉の調和のとれた発育によつて得られます。顔の筋肉の運動の一部分を司るのは食物を噛む咀嚼運動であります。乳幼児期の人間の外面的表情を現はす顔は、生活環境及び遺伝因子等に支配される場合も多いと思ひますが、

その險にかくれた齒の動きを無視することは出来ません。斯様に顎、身体の發育に關係があります。

② 乳幼児期の子供の智能的發育を助長する働きをもつております。

消化器官の一部門である齒は食物を嚙む働きだけでなく、食物を嚙む運動によつて顎の奥にある未完成の永久齒が、完全な石灰化を行うように促進させます。又發育中の脳に適度の刺激を与えます。このことは脳の細胞の發育に必要なことであります。これ等の働きが良く出来るように乳齒を大切に保存せねばなりません。

以上述べたことは、乳齒がむし齒になつた場合にも影響を受けることとなります。

乳齒がむし齒になつた場合如何なる影響を及ぼすか、乳齒むし齒の意義について述べます。

① 乳齒はむし齒になると永久齒のむし齒と比較して、二つの大きな違いがあります。

A 乳齒むし齒は極めて進行が早く、早期に発見して治療をしないと短期間の中に治療が不可能になります。

B 乳齒むし齒は化膿性炎症になりやすいことです。むし齒のために直ぐに齒肉が化膿して腫れてきます。そのためにむし齒と同時に齒肉等の組織が犯され、乳齒の下に生え出る準備をしてゐる永久齒の發育を阻害する危険があります。そのために永久齒が弱くなつたり、又俗に言う齒の神経が犯された場合に治療が不可能の場合が多いため抜去せねばならなくなつてきます。それかと言つて無批判に抜くことを望む母親等があります。それは危険なことです。乳齒むし齒を餘り早く抜きますと未完成の永久齒がそのまま早く生え出たり、又生え出る方向を間違える

恐れがあります。それ故乳齒の抜去は時期の判定が重要でありますから、齒科医の検査を受けて適切な処置をすることが必要です。又この時期には時々齒科医の検査を受ける必要があります。

② 先程乳齒の働きのところで、顎、顔等の發育に關係のあることを述べた如く、乳齒がむし齒になると必然的に痛み等のため痛み側で食物を嚙まぬ様になります。そのために左右の顔等の筋肉の發育が不調和になることがあります。食物を良く嚙まないために顎の發育が遅れ乳齒が脱落後の永久齒が出る場所が狭いため、八重齒等になり、齒列が乱れる場合があります。斯様に永久齒の發育を阻害したり、顔の形及び齒列に影響を与えます。

かかる傾向を口腔検査により発見した場合には、保護者にその旨を連絡し、食事時間を今迄より長く長く嚙むことを続けた結果、身体に比し小さかつた顎も發育し、案じていた八重齒にもならず、すんだ子供を経験しております。

③ 全身的發育に影響を及ぼします。

發育してゆく子供にとつて栄養の補給が必要なことは、今更言うまでもありません。若し乳齒がむし齒になつて充分噛めなかつたら折角の栄養物を充分に利用出来ません。

アメリカの科学者ヒリングス及びロスノー（一九二一年）及び逸のベスラー（一九〇九年）は、病態感染及び中心感染病説を唱えて、齒と全身疾患との關係、例えば慢性關節炎、三叉神経病等を通じておられます。一九三九年ヴィス・パーテンの内科学会の席上、H・オイラー教授は病態感染を強く主張し、病める齒だけの問題でなく、齒を病む人間の問題であると述べていることは大変含みのある言葉と思ひます。斯様にむし齒は全身との關係があります。

次に、乳歯の鑿と保護を如何にすべきか簡単に述べます。

- ① 乳歯は Dose によれば胎生三五日頃から胎児の長さ一八〇日頃から作り始められます。(永久歯は胎生六ヶ月、胎児の長さ一八〇日頃)その形成期間中は母体から栄養をとりまします故、母親は子供の丈夫な歯を作るために必要な栄養物、例えば、牛乳・肝油・果物・海産類等を妊娠中及び産後もとる必要があります。同時に子供にも与えねばなりません。又熱病及び大病にその期間中に罹りますと歯の発育を阻害します。この点も気を付けねばなりません。
 - ② アメリカに於ては二歳頃から歯の検査を受けて、むし歯の治療を受けておるようです。今急速に日本の子供達はその段階までゆくことは無理と思いますが、私達も大いに学ぶべき点と思います。
 - ③ 乳幼児期から今迄の歯に対する悪い觀念をなくすために、少なくとも一年に二回は歯の検査を受けて、歯に対する習慣をつけることが大切です。習慣になれば大きくなつても歯の治療に対する恐怖的觀念が少なくなりまします。現在私も立教小学校に於て年三回歯の検査をしています。それ丈でも低学年の児童でも友達と楽しく遊ぶ氣持で来ます。
 - ④ 乳歯を健全な状態におくためには、家庭・保母さん方及び齒科医の協力が是非共必要です。
- 終りに簡単な主なむし歯の予防法に就て、諸先生はすでに御存知のこと、思います。御参考までに附け加えます。
- ① 食後直ちに(一、二分)歯ブラシで磨いて口を嗽ぎさせすればむし歯の五〇%以上をなくすことが出来ると言つて説き、一九五〇年一月三日付のアメリカ齒学協会新聞に、ノースウエスター大学のフオディク博士が公表しています。これは二ヶ年間の研究から得たものと述べています。然し実際に現在の私達が実施することは非常な努力と共に指導者が必要で、それ故それ程までゆけなければ、毎食後直ちに水で口を嗽ぐことなら幼児及び保育所等でも行えることが出来ます。
- 又、現在アメリカでは、三―三―三方法と言つのが提唱されています。即ち食後三分間以内は、一日三回、三分間歯を磨きまし

ようと言う運動であります。

② 〃お天氣の良い日には口を開くこと〃

これはボストン小児科病院のポール・レツシ博士が一九五〇年三月発表しております。歯は太陽の光線が必要で、この方法は保育所等に於いてお天氣の良い日遊戯中の一休みの中に、日光に向つて三分間程口を開いて日光浴をすることは集団的にも、特別の材料も用いずに簡単に出来る良い方法と思ひます。

③ 次に述べる方法は①・②と異なり、齒科医又は齒科衛生士の手を必要とします。諸先生方すでにリダーダース・ダイジエント(一九四八年一二月号)等で御存知の弗化ソーダ溶液による方法であります。今迄の実験成績によりますと、約四〇%のむし歯抑制率があると言われております。私も現在実施しておりますが、子供でも痛くなく気軽な氣持で受けることが出来ます。現在弗化ソーダ溶液による豫防法を二大別にする、歯に塗布する方法と内服する方法があります。最近の研究によりますと、内服の方法が塗布する方法より効果があると言われております。それ故アメリカに於ては一九四五年頃より水道水の中に、或は給食の中に混入してあります。日本に於ては京都の数校に於いて学校給食の中に入れており、最近一部の水道水の中に入れて市民が日常飲んでおります。この方法は年四回ですから保育所等に於いても特別の設備がなくとも、果团的に齒科医又は齒科衛生士に出張してもらつて行うことも出来ます。

又、年四、五回口腔内を清掃する丈でも効果があります。その外渡銀法等があります。

以上で主なむし歯の豫防法を終ります。

戦後、子供の日が生れ、口腔衛生週間等、子供達の将来の幸福のために、保健衛生の見地からしても子供達の正しい発育を護るために、殊に保育指導の立場にあられる諸先生方及び直接保育に係る世の母様方に、身体の小さな一器官の乳歯が如何に乳幼児の発育に深い関係をもつているか、少しでも御参考になれば幸いかと思ひます。〃清い歯丈夫な身体〃